

# 会 議 録

会 議 の 名 称	令和7年度第3回上尾市社会教育委員会議	
開 催 日 時	令和7年11月19日（水）午後2時から3時28分まで	
開 催 場 所	上尾市役所 7階大会議室	
議 長 氏 名	首藤 敏元	
出席者(委員)氏名	首藤 敏元、近藤 博昭、曾我部 延孝、山下 文孝、清水 和子、 清水 松代、酒井 剛志、長谷川 義水、若原 幸範（9人）	
欠席者(委員)氏名	中島 晴美、林 孝安、須賀 聡、鈴木 茂（4人）	
事務局(庶務担当)	加藤教育総務部長、池田教育総務部次長、白石生涯学習課長、 山内図書館長、長島副主幹、長谷尾主任、目黒主任	
会 議 事 項	1 議 題	2 会 議 結 果
	令和7年度第3回上尾市社会教育委員会議 （1）第6次生涯学習振興基本計画について （2）その他	1 議長 首藤 敏元 副議長 近藤 博昭  2 議事 内容説明及び質疑応答
議 事 の 経 過	別紙のとおり	傍聴者数 0名
会 議 資 料	別紙のとおり	
議事のでん末・概要に相違なきことを証するため、ここに署名する。  令和 7 年 12 月 22 日 <div style="display: inline-block; vertical-align: middle; margin-left: 100px;">           議長の署名 <u>首藤 敏元</u> </div>		

## 議 事 の 経 過

発 言 者	議題・発言内容・決定事項
生涯学習課長	<b>1 開会</b> 定刻となりましたので、ただいまから、令和7年度第3回上尾市社会教育委員会議を開式いたします。なお、中島委員、林委員、須賀委員、鈴木委員の4名の方が欠席となっておりますので、予めご報告申し上げます。
首藤議長	<b>2 首藤議長挨拶</b> ＜首藤議長挨拶＞
首藤議長	<b>3 議事</b> 「上尾市社会教育委員会議運営規則」第3条の規定から委員の半数以上の出席が必要となります。委員総数13名のうち8名の方が出席していますので、この会議が成立することをご報告いたします。 本日、傍聴の方はいますか。
生涯学習課主任	いません。
首藤議長	<b>(1)第6次生涯学習振興基本計画について</b> それでは早速議事に入らせていただきます。 「(1)第6次生涯学習振興基本計画について」、事務局の説明をお願いします。
生涯学習課副主幹	＜第6次生涯学習振興基本計画について説明＞ ＜酒井委員入室＞
首藤議長	説明がおわりました。ウェルビーイングはサブタイトルについたということですね。 表紙をめくると教育長の挨拶があって、目次はその次に入るわけですね。委員の皆様、ご意見ご質問等ございますか。
生涯学習課副主幹	41ページにアンケートの結果が入ります。
若原委員	質問が三点あります。まずサブタイトルに入った「自分らしいウェルビーイングを目指して」ですが、自分らしいウェルビーイングという言い方は個人的に少し違和感があって、そもそもウェルビーイングな状態には「自分らしくある」ということが含まれてるんじゃないかと思います。ここの表現は工夫が必要なのかなというふうに思ったのがまず一つです。 それから二つ目が、これは以前にも申し上げたのですが、基本的な説明の

部分ですね。ほとんど国の方針の説明に割かれていて、上尾市に関する説明は最後に段落がちょっとしかない。これはあくまで上尾市の生涯学習の計画ですので、上尾市において、例えばこのウェルビーイングというものをどう受け止めて、上尾市には今、どういう課題があって、それ克服するために、こういう計画が必要だということを説明できないといけないのだろうと思います。なので、上尾市ならではの、上尾市にとってのウェルビーイングの意味だとか、そういうことをどういう風に書いていくかということが大事だと思いますので、そここのところの見解を聞きたいです。

それと三点目、これは今回の計画に限らずこれまでの上尾市の長期計画全体がそうなのかもしれません。8 ページの「市の動向」を見て思ったのですが、生涯学習というのをちょっと個人主義的に捉えすぎているような気がします。例えば7 ページの「国の動向」、2 段落目の3 行目あたりからの「持続可能な社会の創り手の育成」と「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」について、「持続可能な社会の創り手」は ESD（注釈 ESD：持続可能な開発のための教育 Education for Sustainable Development の略）ですよ。その後の記述を見たとしても、「グローバル化する社会の持続的な発展に向けて学び続ける人材の育成」ですとか、「共生社会の実現に向けた教育」ですとか、「共に学び支え合う社会の実現」、「地域コミュニティの基盤になる」ですとか、生涯学習というのは、個人の自己実現とか達成ということももちろんあるのですが一方で、どういう社会を作っていくのか、地域の社会教育計画、生涯学習計画であればどういう地域を作っていくのかを結びつけて理解する必要があると思うんですね。その視点が少なくとも基本方針の中から読み取ることができなかったのも、その点はしっかり位置付ける必要がありますし、そういう観点から計画を作って事業に取り組んでいく必要があると思いますので、そこはもう少し掘り下げていただきたいです。

首藤議長

なかなか大きいテーマと言えますかね。まずタイトルですかね、ウェルビーイングの定義の中に「自分らしい」という意味が含まれているというご意見ですけれども。36 ページにウェルビーイングについての用語説明がありますが、確かに自分らしさというのが、ウェルビーイングの中に入っているようにこの用語説明でも読み取れるわけですが、サブタイトルに「自分らしい」という言葉が入ることによってしっかりくるのですが、ただ定義上ちょっとそれはおかしいんじゃないかというご意見ですね。

あと2 点目が理念、「上尾市の」ということですね。

若原委員

ウェルビーイングのところだけじゃなく、16 ページで現状と課題の分析があるのですが、ここが全く反映されていない。16 ページと17 ページが分断されてしまっているのも、10 ページまでのアンケートも踏まえた、上尾市の現状分析を踏まえて、どういう方針かという風になっていないとおかしいのではないかと思います。

首藤議長

今までの調査結果を踏まえた形で、追記が必要ではないかということですね。それぞれ最もなご意見と思うと同時に、ちょっと考えなきゃいけないと感じてしまいますが、本部事務局からこの時点で、回答でなくてもご意見などありますか。

生涯学習課 副主幹	<p>確かに 16 ページで現状分析していながら、基本方針とのつながりが悪いなというのは正直、説明を考えていて思っていたところではあります。</p> <p>その一方で、その上尾市民にとってのウェルビーイングがどういったものかというところまで考えてはいなかったのが正直なところでございます。</p> <p>17 ページで若干書かせていただきましたが、やはり、それぞれウェルビーイングは違うという発想の中で、それぞれが自分たちのウェルビーイングを目指すべきじゃないかという部分で、「自分らしい」という言葉にしてしまったというのが正直なところでございます。</p> <p>意味がかぶるということであれば、「自分らしい」ではない、何か別に考えなくてはならないかというのが私の正直な意見でございます。</p>
清水（マ）委員	<p>今の事務局の話を聴きますと、自分らしいウェルビーイング感というのが、上尾市が求めているウェルビーイングなのかなと。逆に、ウェルビーイングという言葉そのものに「自分らしい」という意味が入ってのことだとは思いますが、そこをあえて取り出したことで、それが上尾市のウェルビーイングと考えてもよろしいのでしょうか。</p>
曾我部委員	<p>私はできたらこのサブタイトルを入れて進めていただきたい。ただその上で、先ほど若原委員さんも言われましたが、「自分らしいウェルビーイング」、私も調べてみたところ、そういう表現でいろいろインターネットにも出てはいるんですね。だけど、なんとなくもう一つ掴めない。「人生をウェルビーイングに」とかにすると、また違って見えることもあるんですよ。それと、事務局の方に、解説を入れてもらって具体的に見えてきたのですが、この解説が堅苦しい。これは読んでもなかなかわかるようでわからないと思うんです。市民の方も我々もわからないかなと。ウェルビーイングに取り組んでいる事業所もあるのですが、それを見ても、結局ウェルビーイングというのは「明るく元気に」なんですよ。「笑顔イコールウェルビーイング」というキャッチコピーで取り組んでいる企業なんかもあるんですよ。学校で取り組んでいるのは、やはり子どもの笑顔作りがあるんですけども、そうすると、例えば具体的ところで「スマイル上尾」とか、そういうような表現をサブタイトルではなく、笑顔とかわかりやすいのがいいのかなと思うんですよ。</p> <p>また、指標について説明がありましたが、資料のところのアンケートで、ウェルビーイングに関する設問の設定に繋がるじゃないですか。指標ですからこれからいろいろ設定していくと思うのですが、その中で、例えば子ども大学やいろいろな子どもを対象にした取り組みあるじゃないですか。そのときの説明でその評価が、いつ実施した、何人集まったじゃなくて、設問の中に、例えばこの事業を通して、何か自分で自信を持ったことはありましたか、役に立ったことはありましたか、どんなことが楽しかったですかとか、そういうアンケートの中で具体的に評価できるような設問を入れれば、いろいろな取り組みの中に、ウェルビーイングな生き方の評価が、アンケートで取れると思うんです。高齢者の事業にしても、この事業はどうでしたか、元気が出ましたかとかね、そういう形で、ある程度結果に伴う、楽しいし、わかりやすいような設問にしたらいかなと思うんですよ。そうすると、設問と指標のところでの具体的などころではもっと行政のスタッフの研修を重ねることが必要かなと思います。ウェルビーイングとは何かということを皆が理解できるということが大事じゃないかな。議会でも、思いつきでやられても困ると思うんですよ。これ取り組むとね、すごく明るい上尾作りじゃないで</p>

	<p>すか。また、子どもをいかに元気にするか、50年後の子どもたちを想定してもそうだと思うんですよ。</p> <p>そうするとやはり、そういう取り組みを上尾はやってるんだということを強く印象付けるような質問とかにしていきたいと思いますと思うんですけどね。</p> <p>それからもう一点いいですか。確認させていただきたいのですが、計画案2-3の生涯学習施設の管理運営の、その下に具体的な施設が出ていますが、ここの解釈なんですけれど、文化センターやコミュニティセンター、あるいは市民体育館は、確かに指針を見ると、無料の施設が原則とあるけれども、でもいろいろなイベントに市民が参加していて、調べてみたら文化センターも公共施設、生涯学習施設でいいですよという見方もあるなかで、ここに入らないという解釈はどう出てきたのかなと。</p> <p>23万都市で、施設が四つしかないというのはどうなのかな。</p>
首藤議長	<p>まずサブタイトルではなく、こちらの方ですね、たくさん施設はあるし、生涯学習、あるいは上尾市の市報を見ますと、いろんなところでいろんな生涯学習活動が行われているけれども、この委員会が直接、管理できるものというのは、ここにある4ヶ所に限られていくんですね。それがちょっと悩ましいところなんです。</p>
曾我部委員	<p>公民館が無料かと言えば無料ではないんですよ。使用料とかを取っているので変じゃないんです。社会教育法ではあてはめても特に問題ないとなっているのですが、指針の中で、無料原則というようなことが、あるようなんですけどね。</p>
近藤副議長	<p>曾我部先生の仰ることはごもっともです。今回の全体的なところは訂正も含めて、僕らが言ってきたことの方になってきてはいるんだろうなと思っています。ところが、先日の第6次上尾市生涯学習振興基本計画に対して意見を求められたときにも書いたんですけど、ウェルビーイングという言葉そのものがものすごく曖昧で、誰にでも、それぞれのスタイルによって、それぞれにみんなウェルビーイングなんです。仕事をしたくない人もそれがウェルビーイングだというならその人のウェルビーイング。外車に乗って高級な食事をして、素晴らしい家に住んで、そういうのが私のウェルビーイングだっていう人にとってはそれがウェルビーイング。ことほど左様にウェルビーイングの解釈ってのは違うんだということは前にもお話したと思うんですけど、僕が先日の意見書に書いたのは、上尾市におけるウェルビーイングな生涯学習って何なんだと。上尾市にとって、それを討議して、上尾市におけるウェルビーイングの姿をきちんと規定していかないと、様々な意見が出てくると僕は思う。今、曖昧な状況のウェルビーイングという言葉がサブタイトルやなんかでも出てくると、注釈をつけてもらっても、それを理解できないというふうに僕は考えているのです。</p> <p>だから、上尾らしい言い方で、国がウェルビーイングという言葉を使ったからウェルビーイングなんだというような感覚が非常に僕は受ける。つまり上尾流の咀嚼ができていないという気がしてしょうがない。そうすると、やっぱりいろいろなところに問題が出てくるのと同時に、今度はアンケートを取るのもウェルビーイングなことも含めてアンケートも取ってみたい。それぞれさっき言ったようにみんな違う尺度を持ってるウェルビーイングという言葉を使ってそのアンケートを取ったらどんなことになるんだろうって</p>

	<p>いうぐらいに、僕はあげさだけれども考えざるを得ない。</p> <p>だから、そういう意味では、まず整理をすれば、自分らしいウェルビーイングというのは、馬から落ちて落馬したとか、頭痛で頭が痛いと言っているようなもので、同じ言葉を2回繰り返してるようで、どうも内容的には咀嚼できてないなという感じがしてしまうというような気がします。</p> <p>もう一つ、今、曾我部先生からお話出た、2-3に当てはまる施設がこれだけだという、これは第一章に書いてあるんですね。</p> <p>生涯学習という言葉ということで一般には、学校教育や社会教育、文化活動、スポーツ活動、レクリエーション活動、ボランティア活動、企業内教育、趣味などすごい幅広い。これを基本的に生涯学習というふうにして上尾市の生涯学習として捉えるの？と。例えばこの委員会でも、どこまでの範囲をもって我々がこれを検討すべきなのという話になると、やはり今出てきたように、所轄が違うからということとはまたちょっと違ってくる。行政の縦割りの中での取り組み方とはまたちょっと違ってくるのかなという気もしないでもない。だから、やはりその辺のところをもう少し整理したいなという気もするので、だから一文入れてもしそれができるのであれば、整理はしたいなという気はしますけど。以上です。</p>
首藤議長	<p>まず社会教育施設の方は、教育委員会が管轄できるのがこの部分で、文化センターもコミセンも関わりはありますが、直接教育委員会が運営を管理しているわけではない。ですからこの生涯学習振興基本計画に載せる施設としては、次第の2ページにある施設に限定されるのかなと思います。ただコミセンにしても文化センターにしても、自分のところで行われる活動、その活動は教育委員会が支援できますのでね。</p>
近藤副議長	<p>そういう分け方を、一文が入れば、わかりやすいかと。</p>
生涯学習課長	<p>今お話をいただいたものが基本になってくるのですが、ここの部分では、生涯学習施設の管理運営をする部分、老朽化している公民館ですとか、人権教育集会所、ギャラリー等、そういったものをどう運営していくかというものになってきます。</p> <p>曾我部委員さんのおっしゃるように、社会教育施設、生涯学習の活動の場というのはあらゆるところにあるというのはおっしゃる通りかと思います。ただ、我々の計画の中で、拠点として管理運営していくものはこちらになってくるかなというところで整理をさせていただいたところなのですが、それがこの中でわかりにくいということであれば、少し何か説明できるような一文を入れられればと思います。</p>
近藤副議長	<p>一文を入れれば、整理できる。</p>
曾我部委員	<p>ぜひそうしてください。これだと、この施設だけで学び合っているとなってしまう。</p>
生涯学習課長	<p>はい、コミセンやカルチャーセンターのような場所もあるのですが、より、皆さんの活動の拠点として、場を作る側として管理運営していく。この辺をちゃんとしていきますよという意味合いで分けさせていただきました。</p>

曾我部委員	冊子になってきちんと出すのであれば、やはり上尾はこうやっているですよと示した方がいい。器があって、そこへ私達スタッフをやってますよと。
首藤議長	生涯学習の場としての市内のいろいろな場所も含めながら追記してもらえるといいかなと思います。
近藤副議長	拠点として考えている施設はここだということさえ入れば、いいのではないかと思います。それでないと、第1章の最初でこれだけ謳っていると、今のようなご意見が出てきますから、拠点として捉えている場所はここなんだということで良いのではと思います。
首藤議長	<p>次はサブタイトルですけど、ウェルビーイングは載せるという方向で行きたいと思います。それは前回の委員会の議論を踏まえた形でそこはゆるぎないかなと思います。</p> <p>あと、生涯学習とか社会教育で大事な観点というのは、個人のウェルビーイングと相手のウェルビーイングが相互作用する、例えば子育てでいうと親のウェルビーイングと子のウェルビーイング、あと支援者のウェルビーイング、さらに地域のウェルビーイングというように広がってくところが特に重要かなと思っています。そして、そのウェルビーイングの定義を見ましても、まさにそのようなことが書かれていると思いますので、少し理屈っぽい言い方になるかもしれませんが、私のウェルビーイングと私達のウェルビーイング、その全てを満たせる形で、上尾市で生きる、自分のウェルビーイングということを含めて、自分らしいウェルビーイングという言葉を使いますよという、そういう解釈ではどうですか。自分らしいウェルビーイングというのは、私のウェルビーイングだけではないということですね。いろいろな周りの人たちの、地域のウェルビーイングを考えた上で、上尾でこう生きる、私達の、自分のウェルビーイングという意味を込めて、自分らしいウェルビーイング。</p>
清水（マ）委員	<p>以前、生涯学習推進員をやっていたときに、生涯学習の最終目標というか目的は、社会、他者に自分が学んだことを還元していくというところでありました。そういうことを考えると、やはり自分がこう感じたウェルビーイングを社会に還元できれば、また同じようにみんなが、社会全体がウェルビーイングになるのではないかと思います。そうすると、生涯学習とウェルビーイングは、すごく仲の良い間柄ではないかなと感じますので、ぜひ、上手にウェルビーイングの状態にするための生涯学習の道筋を立てていただけると嬉しいかなと思っています。</p> <p>一点、質問というかお願いになると思うのですが、別冊資料の32ページ「基本目標3 人をつなぎ未来へつなぐ学習事業の展開」、個人的にすごく大事な部分かなと、私は思っています。やはり繋いでいくということはとても大事なかなと思います。今、個人個人が本当に、ポツンポツンとした状態で生活しているというのが、当たり前のように感じられているような、そういう生活をしているところ、やはり、繋がりを持って生きていくということはとても大事ですから、今の社会の繋がり、それから未来へいろいろなものが繋がっていくということは、これから先、とても大事な部分になってくるのではないかなと私は考えています。</p> <p>そういう意味合いで、次第の2ページ、2-4の生涯学習を支える組織の運</p>

	<p>営というのは、とても大事な部分かなと。仕事をしていただかないといけな いかなと感じています。「人をつなぎ未来へつなぐ学習事業の展開」に強く貢 献するものと思っていますので、そのところをぜひ頑張ってくださいねと思 っております。</p>
首藤議長	<p>繋いでいくということもウェルビーイングの一部ですしね、繋ぐというこ とは確かに大事なことだと思います。第4期、第5期にありました、循環と いう関係ですね。世代間交流も含め、学びが伝わる、学びが循環する。そう いった部分も関係してきますので、重要なかなというのは私もそう思います。 ただ繋ごうとあまり意識しすぎると、学習者は、かえって引いちゃうかもし れません。それぞれの活動の進め方がすごく大切になってくるかなと思いま す。</p> <p>サブタイトルはいかがですか。「ウェルビーイング」だけだと何かピンと来 ないので、委員の皆さん、代案はありますか。</p>
若原委員	<p>これまでの議論を総じて考えると、ともにウェルビーイングを高めあうよ うな地域を目指すとか、そんな感じになるかと思います。</p>
首藤議長	<p>「共にウェルビーイングを高めあう地域を目指して」。それもいいですね。</p>
近藤副議長	<p>僕は「自分らしい」を「それぞれ」に言い換えた。「それぞれのウェルビー イングを目指して」。自分じゃなくてそれぞれ複数を意識して。</p>
首藤議長	<p>ウェルビーイングの言葉の意味からくる疑問がいろいろ出てきてくるわ けですけども、この委員会で、サブタイトルはきちんと決めておきたいと 思います。多分それぞれの柱と基本目標あたりはそんなに大きな問題はない のかなと思ってます。まずサブタイトル、理念の部分を、本来なら理念が決 まって基本目標として、施策の柱という流れになるんですけども。</p> <p>若原委員さんからは「共にウェルビーイングを高めあう地域を目指して」、 地域が良いか、上尾が良いか。</p> <p>近藤委員さんからは「それぞれのウェルビーイングを目指して」。</p>
長谷川委員	<p>「共に」と「それぞれ」は意味が違ったりするのでしょうか。</p>
近藤副議長	<p>言葉としては違いますね。「共に」となると基本的には協力だもんね。「そ れぞれ」というのは相手を意識はしているけれども個々のという意味が含ま れてくる。</p>
首藤議長	<p>いかがでしょうか。「共にウェルビーイングを高めあう地域を目指して」、 一番しっくりくるような気もしますけれども。上尾の計画ですから、わざわざ 「上尾」と入れなくても良いかなと思います。</p>
首藤議長	<p>酒井委員さんいかがでしょうか。</p>
酒井委員	<p>共にという言葉は、さっきの繋がりという意味も含まれてくるので、それ はいいのかなと感じています。</p>



首藤議長 長谷川委員	<p>長谷川委員さんいかがでしょうか。</p> <p>私も「共に」が良いかなと思います。最後は「地域」の方がいいですか。「上尾」の方が良いのでしょうか。</p>
首藤議長	<p>どちらが良いかはまだ。上尾の計画だから私はわざわざここで上尾としなくてもいいかなとも思ったんですけども。「上尾を目指して」でも悪くはないのかなと。</p>
若原委員	<p>「まち」はいかがですか</p>
首藤議長	<p>ひらがなですかね、漢字でも何パターンかありますけど。</p> <p>山下委員さんいかがでしょうか。</p>
山下委員	<p>なかなか難しいなと思いますね。皆さん学識があって、これを読まれて、それぞれの考えが出てくるんですけど、全くの市民がこれを見ても、ここには気が付かないと思うんです。そのウェルビーイングの意味ってここに書いてある通りだけれども、果たしてこのサブタイトルから、何をどうやって解釈して、どういうふうに生きていったらいいかなっていうところまではちょっと考えられないんですね。皆さんがおっしゃる通りで文言はいいんじゃないかなと思いますけれど。これがっていうのはありません。</p>
首藤議長	<p>清水委員さんいかがでしょうか。</p>
清水（か）委員	<p>人それぞれだと思います、本当に。友達に静岡の方が多いんですけども、沼津と三島なんですけれども、あまり公民館活動というのはやってなくて。上尾はずいぶん親切にいろいろやってくさるんだなと私は感心してるところなんです。ですから、本当にいろいろチラシとか見せていただいて、行きたい方は行けばいいし、無理だなと思えば行かない、それも自由ですからいいんじゃないかなと、私自身はそういうふうに思ってます。</p>
首藤議長	<p>曽我部委員さんいかがでしょうか。</p>
曽我部委員	<p>例えば私だったら「高めあう、認めあう、ウェルビーイング上尾」とか。やはり「上尾」は入れた方がいいと思うんだよね。</p>
首藤議長	<p>「地域」でも曖昧だから「上尾」ということですね。</p>
曽我部委員	<p>ウェルビーイングとは何かということを、例えば市報にいろいろな事例や実例を交えて、ウェルビーイングという言葉を定着するような、紹介記事とかを子どもたち、高齢者の立場からとか。いきなり上げるのではなくて。</p>
首藤議長	<p>17, 18 ページに、用語説明にあるようなウェルビーイングの定義をここで書いた方がいいのかなと思います。ここにあるのはウェルビーイングの一つの側面ですので、関係性とか調和、利他性とか、そういうことも含めた言葉として入れると。そして、データを取ったところを反映していないというご意見がありましたけれども、中学生以降、公民館活動を知らないとか、参加したことがないということがたくさんあったりですね。他の結果も、参加し</p>

	<p>たことがないという、行ったことがないという意見も多かったかなというふうに思いますので、だからその辺も含めてですね、社会教育施設、生涯学習施設で、生きがいを見つけたり、趣味仲間を見つけたりしながら幸せに生きていける、ウェルビーイングの状態を高めるということが必要じゃないかということがあって、そしてサブタイトルのウェルビーイングという流れになるといいのかなというふうに感じますけれども。18 ページに空白部分がたくさんありますから、この2 ページで十分に説明できるのかなと思います。</p> <p>で、サブタイトルですが、「ウェルビーイング」は、これを例えば上尾市で調査アンケートすれば、市民の6 割はわからないと思いますね。私は、学校教育に携わっているとよく出てくる言葉なのでわかりやすい。つまり半分以上はわからないけれども、政府もそうですけれども、ウェルビーイングという言葉をも市民に投げかけて定着させていくと、そういう意味でサブタイトルに使うということがいいのかなと思います。</p> <p>曾我部委員の「高めあう」という案も魅力的に思えてきました。</p>
近藤副議長	<p>キャッチフレーズとしては非常に的を射ていると思います。</p>
首藤議長	<p>ともにウェルビーイングを高め合うことを目指してということはこの文章の中で入れて、サブタイトルは「高めあう 認めあう ウェルビーイング 上尾」でいかがでしょうか。</p> <p>それでは、反対意見は出ませんでしたので、サブタイトルは「高めあう、認めあう、ウェルビーイング、上尾」。そのウェルビーイングという言葉の説明とそれを前面に出す理由として、ともにウェルビーイング高め合うということが含まれるような文章を 17, 18 ページに入れてもらう。その際にそのアンケート結果も踏まえてということを入れて。</p> <p>サブタイトルのスペースをどういうふうに入れますか。事務局に任せて良いでしょうか。こういう審議する委員会も今日が最後です。</p>
教育総務部長	<p>上尾市の第6 次総合計画の将来の目指す姿は「みんなでつくる みんなが輝くまち あげお」というのがありますが、そのこのところはスペースです。句読点ではなくてスペースで、総合計画の中では作られています。</p>
清水（カ）委員	<p>ごめんなさいね、とんちんかんかもしれませんけれども、あまり難しい言葉を並べるよりも、どなたにでもわかりやすい言葉にした方が、広報にしても何にしても皆さん意外と見ないようで見てるんですね。それは絶対に、わかりやすい言葉であり長くなく、くどくなくやっていただいた方が皆さんわかるような気がいたします。皆さん一生懸命考えてるのでなんとも申し上げませんが、私としては、私達の世代としては、とにかくわかりやすくしていただいた方が、心に留まると思うんですね。今、カタカナ語がいっぱいあるんでね、それはもう集まると、カタカナが多いねっていう話にはなるんですね。ですから本当はもう日本語でわかりやすく短い言葉で言っていた方が、心に留まるんじゃないかなと私自身はそう思っています。このサブタイトルはいい言葉だし、皆さんで決めていただいたので、それは別としてですね。</p>
教育総務部長	<p>ちょっと確認なんですけれども、最後の「ウェルビーイング上尾」の使い</p>

	<p>方はどういう風に認識すればよいですか。</p> <p>「高めあう認めあうウェルビーイング」に「上尾」が添えられているのか、「高めあう認めあう」「ウェルビーイング上尾」というように、上尾にウェルビーイングがかかっているのか。その見方によってスペースをどこに入れるのかが変わってくると思うのですが。で、ただ単に上尾と入ってきたときに、「高めあう認めあうウェルビーイング」「上尾」となると、先ほど若原先生がおっしゃっていた、「目指す」とか、何かそういう言葉が間に入って「上尾」とくるのが、言葉は長くなってしまうんですけども、読んだときに「高めあう認めあうウェルビーイングを目指す上尾」という方が、上尾に何がかかってくるかというのがちょっと。</p>
近藤副議長	<p>ウェルビーイングな上尾なの？っていう話だよ。</p>
首藤議長	<p>その両方の意味を落としてもいいとは思いますが、確かに上尾に「目指す」とつけるからには、まだそういう状態に上尾になっていないというのが前提になると思いますので、それを各調査から理由付けができるかと思います。</p>
清水（マ）委員	<p>「高めあう認めあう」というのは、人が主体なんですか。それとも、町、やり方が主体なのか。主体はどこにあるのか。市民が高めあう、認めあうということなのか。そこがもし、市民をターゲットにするのであれば、はっきりわかるような形だと、もっと響くんじゃないかなと思いますがいかがでしょうか。</p>
生涯学習課 副主幹	<p>最終的にはやはり若原先生のご意見に戻るんじゃないかと。</p>
首藤議長	<p>「共にウェルビーイングを高めあうまちを目指して」ですね。ウェルビーイング、お互いを認めあい、高め合う。それがウェルビーイングにつながっていくわけです。</p> <p>それはこの文章の中に入れることにして、サブタイトルはまた元に戻ってということでしょうか。</p> <p>まちを目指してか、あげおを目指してか、</p>
若原委員	<p>「上尾」と書いて「まち」と読むというのがあります。</p>
首藤議長	<p>なかなかこれもいいですね。いろいろ案を言いましたが、最終的な私の意見ですが、「共にウェルビーイングを高めあう上尾（まち）を目指して」をサブタイトルしたいと思いますがいかがでしょうか。</p>
各委員	<p>異議なし。</p>
首藤議長	<p>「高めあう、認めあう」という言葉はキーワードになりますから、どこかに入れておいてもらえるといいかと思います。そしてウェルビーイングの定義を個人的なもの和社会的なものの両方を含める定義を書いてもらう。そういう修正が入ります。</p>

清水（マ）委員	<p>文章の中に入れていただくときに、ともに高めあって、それぞれのウェルビーイングを認め合うというのは、そういう形を書いてくださるといいのかなと思います。それぞれって、私は個人個人の持っているものを掘り出してくるのだとを感じるんです。そうすると認め合うという言葉が、もっと活きるんじゃないかなと感じたので。共にというのは力をもらって高め合っていくっていう、そういう強いイメージというか、そういう良いイメージを私は感じたので。</p>
首藤議長	<p>その説明のところにそれぞれにという言葉のをうまく使いながら、ともにということが活きるような、文を入れるということで。</p> <p>それで、この 17, 18 ページの文章は、これは事務局が修正したものを私が確認するというところで進めてよろしいでしょうか。</p>
各委員	<p>異議なし。</p>
首藤議長	<p>ここで皆さんから同意を得られたものはサブタイトル「共にウェルビーイングを高めあう上尾（まち）を目指して」でいきたいと思います。ありがとうございました。</p> <p>あと基本目標、施策の柱等で何かご意見、ご質問ありますでしょうか。</p>
首藤議長	<p>34 ページに「若い世帯向け講座・事業の実施」とありますけれど、これは世帯・世代？どちらですか。</p>
生涯学習課主任	<p>「世代」です。</p>
首藤議長	<p>若い世代向け講座の若い世代とは何歳くらいを想定されているのでしょうか。子ども大学もありますので、子ども大学以外は中高生、あるいは若い社会人、20 代 30 代。公民館にほとんど顔を出さないその年代、そういう人たちをターゲットにしたものをやると書いてあると、それはやった方がいいと思うんですけども、今なかなか人が集まらない、できてないというところを、今までと同じことやっても今後もうまくいかないということですから。何か新しいことをやらなきゃいけないと思うんですね。</p>
生涯学習課長	<p>もちろん、子どもたちも、子ども大学とは別に子ども向けの講座もやっておりますので、そういった子どもたちを含め、中高生ですとか、20 代、働いている方、あまり来ないような世代を対象にしたいなとは考えております。</p>
首藤議長	<p>今回の、理念が変わって新しい第 6 次上尾市生涯学習振興基本計画になったわけですから、今までは基本計画が変わっても中身はあまり変わらないというのが何年か来たかなと思うのですが、理念が変わりましたので、計画も変わりましたから、これはって言うですね、具体的な活動が見えてくるといいのかなと思い、実際に案を見ると、今までとは違うなという、意気込みを感じますので、とても期待できる内容になっているかなと思います。</p> <p>委員の皆さん達の団体ですね、何か理念が変わったことによって、こういう観点からちょっと新しいことやってみようとか、そういうアイディアが出ると、余計面白くなるのかなと思います。ぜひ団体に戻って、来年度以降で</p>

長谷川委員	<p>すがご検討いただければなと思います。</p> <p>単純な質問なのですがよろしいでしょうか。いろいろな講座が 10 個ぐらいあるんですけど、こういった講座の講師というのは、講座の中身とか、どうやって運営されてるのかなと思って。生涯学習課さんの方で講座を決めて、講師を選んで、講師と打ち合わせをして、講座を開くという形でやられているのでしょうか。</p>
生涯学習課長	<p>その講座の種類によって変わってくるんですけども、多くの講座は、公民館を中心に開催しておりまして、それぞれの公民館の職員の方で企画をして、講師を選定して、調整するという形になっております。ものによって、出前講座のようなものは市役所の職員が呼ばれるということもございますし、文化財などについてはこちらの職員が講座を設定してやっている場合もございます。</p>
首藤議長	<p>ありがとうございます。それでは「(1) 第6次生涯学習振興基本計画について」、当会議としては、サブタイトルの変更、あと内容の追記の要求はありましたけれども、概ね妥当との意見とさせていただきたいと思います。</p>
首藤議長	<p><b>(1) その他</b></p> <p>次に「(2) その他」について、事務局の説明をお願いします。</p>
生涯学習課副主幹	<p>&lt;スケジュール、次回会議、研修について説明&gt;</p>
首藤議長	<p>委員の皆様、全体を通して何かご意見等ございましたらお願いします。よろしいでしょうか。</p> <p>以上で予定された議事は終了いたしました。 ご協力ありがとうございました。これで議長を降ろさせていただきます。</p> <p><b>5 閉 会</b></p>
生涯学習課長	<p>首藤議長、ありがとうございました。 では、閉会のご挨拶を近藤副議長からお願いします。</p>
近藤副議長	<p>&lt;閉会挨拶&gt;</p>
生涯学習課長	<p>以上で予定された議事は終了いたしました。ご協力ありがとうございました。 これをもちまして、令和7年度第3回社会教育委員会議事を終了とさせていただきます。</p> <p>(午後3時28分終了)</p>